

金融市場NOW

# 協同での問題解決力高まる 2015年国際学力調査

## 課題探究能力を育む学習に取り組んだ教育現場の成果が

- ▶ 2015年PISAの『協同問題解決能力調査』において日本はOECD加盟国中1位となった。
- ▶ 周囲への気配りから誤答する傾向も見られ、日本人の国民性が反映されたと文部科学省は分析。
- ▶ また、課題解決や協力的な活動を重視してきた教育現場の取り組みの成果であると評価している。

世界52カ国・地域の15歳計12.5万人を対象に実施された2015年の学習到達度調査（PISA）の結果が11月21日に経済協力開発機構（OECD）より公表されました。他者と協同で課題を解決する力を測る『協同問題解決能力調査』の結果では、日本の平均得点は52カ国・地域中2位、OECD加盟国の32カ国中では1位となり（図表1）、男子よりも女子のほうが平均点が高いという結果になりました。協調性の高さがうかがわれる一方で、周囲に気を配り過ぎて誤答する傾向も見られ、文部科学省は「和を重視する国民性が反映された」と分析しています。

PISAは2000年から15歳を対象に3年毎に行われており、科学的リテラシー※、数学的リテラシー、読解力の3分野で「義務教育で得た知識をどのようにより広く応用できるか」どうかを共通テストにより測定しており（図表2）、2015年調査は国内の198校の高校生らおよそ6,600人が受験しました。2003年、2012年にも問題解決能力を行いました。協同での能力を調べたのは今回が初めてでした。

1位はシンガポールの561点、2位が日本で552点、3位は香港で541点、4位は韓国538点、5位はカナダ535点となりました。文部科学省は「これまでの学習指導要領を踏まえた課題探求型の学習に重きを置いた教育現場の取り組みや、協力的な活動を重視して取り組んできた成果」と評価しています。

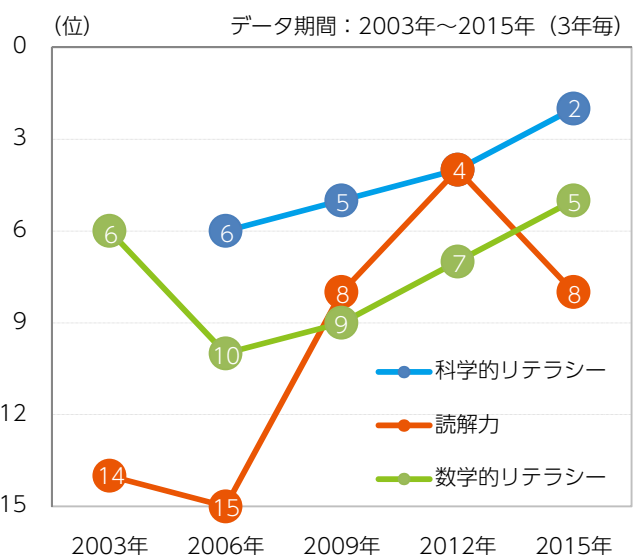
※情報・知識などの活用能力

図表1：日本はOECD加盟国中では1位となった

順位	国・地域	平均得点
1	シンガポール ★	561
2	日本	552
3	香港 ★	541
4	韓国	538
5	カナダ	535
6	エストニア	535
7	フィンランド	534
8	マカオ ★	534
9	ニュージーランド	533
10	オーストラリア	531

※協同問題解決能力調査の平均点上位10カ国・地域（★はOECD非加盟国）  
\*平均得点は小数点第1位を四捨五入して表記しています。

図表2：2015年は読解力の順位が大幅に低下した



※PISA（3分野）における日本の順位の変移、逆目盛  
\*2003年は科学的リテラシーの調査はなし

出所）図表1はOECD、図表2は国立教育政策研究所の資料をもとにニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

**ニッセイアセットマネジメント** 1/1